

特集 Special Topics

命の大切さを知り、思いやりの心を育む

人に優しくなる心がうまれる「赤ちゃんのチカラプロジェクト」

市では、市内すべての小・中学校で、自他の生命を大切にすることを育む「命の教育」を推進しています。

そのなかでも、「赤ちゃんのチカラプロジェクト」は、児童生徒が各校を訪れる赤ちゃんを抱き上げ、その笑顔や泣き顔などに直接触れることで命の大切さを心と体で実感する、「命の教育」の中核をなす貴重な体験の場となっています。

今号では、清明小・二中で行われた事業の様子をご紹介します。

問合せ 指導課指導主事 幸谷 25552

子どもたちは今…

「日本の若者は諸外国と比べて、自己を肯定的に捉えている者の割合が低く、自分に誇りを持つている者の割合も低い。」(内閣府「平成26年度版子ども・若者白書」)

現在、日本の思春期の子どもたちの多くが、アメリカやイギリスなどの子どもたちと比べ、自己肯定感(自尊感情)を持ちにくい現状が明らかになってきています。

こうした背景には、少子化や核家族化の進展に伴う希薄な人間関係などの影響から、他人と触れ合うことが減少し、人を思いやり、共感する力が弱くなっていることが考えられます。また、このよう

な状況は、思春期の子どもたちの将来の虐待のリスクを高めるだけではなく、いじめや暴力行為の遠因の一つともなっています。

思春期の子どもたちの生活を支り豊かなものとするために、他者への関心や共感力を高めるとともに、命を大切に思い、自らを慈しむ心を育む機会を得ることが、今求められています。

このプロジェクトは、少子化や核家族化の進展に伴う希薄な人間関係などの影響から、他人と触れ合うことが減少し、人を思いやり、共感する力が弱くなっていることが考えられます。また、このよう

な状況は、思春期の子どもたちの将来の虐待のリスクを高めるだけではなく、いじめや暴力行為の遠因の一つともなっています。

思春期の子どもたちの生活を支り豊かなものとするために、他者への関心や共感力を高めるとともに、命を大切に思い、自らを慈しむ心を育む機会を得ることが、今求められています。

このプロジェクトは、赤ちゃんの成長過程や赤ちゃんの保護者との関わり方などを学ぶ「講義」と、赤ちゃんと一緒に遊んだり保護者から子育ての話を聞くなどする「体験学習」から構成されています。

今年度は、小学校でNPO法人アイの皆さん、中学校でピッコロの皆さん、そして、多くの親子の方のご協力の下実施しています。

赤ちゃんのチカラプロジェクトとは

こうした現状に対して、清瀬市では、平成21年度に市内のNPO法人子育てネットワーク・ピッコロを中心としたプロジェクト委員会に

よる「赤ちゃんのチカラプロジェクト・ジュニアサポーター養成出前講座」が立ち上げられ、平成22年度から市内の中学生を中心に実施されてきました。(平成24年度から市の委託事業「赤ちゃんのチカラプロジェクト」として全小・中学校で開催)

このプロジェクトは、赤ちゃんとの触れ合いを通して、他者への関心や共感力を高めるとともに、自らや、周囲の人たちの命の大切さを感じることを目的としています。また、赤ちゃんの保護者とも接することにより、将来の子育ての予備的な体験を行い、赤ちゃんへの愛着感を醸成し、育児への戸惑いや不安を和らげることも目指しています。

保護者 事業を行うことで、ふだんの生活では得ることのできない、参加者相互の「気づき」や「学び」が促されます。主に、保護者や児童生徒、赤ちゃんは次のような効果が期待されます。

赤ちゃんのチカラプロジェクトin清明小

6月13日に行われた赤ちゃんのチカラプロジェクトには、延べ13組の親子が参加しました。6年生の子どもたちが赤ちゃんに触れ合い、命の大切さを実感しました。

①命について事前勉強

まず、命についての講義を受講し事前に知識を得ます。講義では、赤ちゃんとの接し方や、大泉門(骨と骨がくっつく前の隙間)で骨で保護されていない部分は強く押しはけないなどの注意事項、人形を使用して学びます。また、妊娠時と同様の重さのジャケツを付け、妊婦体験もします。



約7kgの重さに子どもたちは思わず「重い！」。

③赤ちゃんに触れ合う

赤ちゃんに触れ合っている最中、子どもたちは「歯が生えているよ」などと赤ちゃんの状態を笑顔で観察し、こわごわしながら抱っこにも挑戦します。



互いに声を掛け合い、大切そうに抱っこをする児童に、保護者の方も思わずにっこり。

また、「二日何泣くの?」「夜泣きで夜は起さるの?」「どうして頭の後ろだけ髪が少くないの?」など、子どもたちの「なぜ?」に対し、保護者の方は一つ一つ丁寧に答えます。



質問に笑顔で答えるお母さん。「ホウレンソウを食べると緑のウンチが出る」との話に児童が驚く。



赤ちゃんに、突然顔を触られてびっくり。泣いちゃった。

①座学と接し方の準備

赤ちゃんのチカラプロジェクトin二中

6月20日に行われた赤ちゃんのチカラプロジェクトには、延べ25組の親子が参加しました。中学3年生の生徒が赤ちゃんに触れ合い、命の大切さを実感し、講座終了後には、市内3か所のつどいの広場でボランティア活動ができる「ジュニアサポーター養成講座」の認定証をもらいました。



子どもの成長と発達過程について、ピッコロ理事長の小保さんが説明します。



最初は人形で練習。分からないことは今のうちに質問しようと生徒は皆積極的。

②いざ、赤ちゃんとの対面



思ったより重い赤ちゃん。生徒からは「命の重さ」との声があがります。



泣いた赤ちゃんを保護者に戻すとびたりと泣きやむ。その早さに生徒は、「早っ!」と叫ぶ



児童・生徒

子どもに対する親の思いを知りたい機会になるとともに、自分も大切に育てられたことを知り、自他を大切にすることを心が育ちます。

赤ちゃん

いつもと違う人に抱っこされることで、体の発達が促進され、体質が育ちます。

保護者

児童・生徒と交流することにより、成長した我が子の姿をイメージできます。保護者同士の交流の場となります。

③認定証渡し



触れ合い終了後には、保護者の皆さんから一言ずつメッセージをいただきました。



地域のつどいの広場で活動することで、地域の親子とのつながりも期待できます

小学校

この事業は、あらゆる年齢や立場の方がそれぞれ学ぶことができます。生涯教育として素晴らしい、地域のマンパワーでこのような事業が実現できる清瀬を誇りに思います。



ウイズアイのスタッフの皆さん(約50人が在籍)

洗いうがいを徹底してもらっています。一方で、赤ちゃんのストレスも相当なものなので、負担が少なくなるよう気を付けるとともに、児童に赤ちゃんの成長を実感してもらえよう、生後4〜10か月の赤ちゃんに参加してもらっています。

今後も、より多くの皆さんに本事業を知っていただき、さまざまな生活の場面で赤ちゃんを通じた地域の輪が広がることが願っています。

ご協力いただいた保護者の方の感想(一部) ・「赤ちゃんを前に目をキラキラさせて、児童の皆さんもこんな風に愛されて育ったんだなと思いました。自分の子どもが小学生になり、この授業を受ける時、どんな気持ちになるのかな、と

楽しみにになりました! ・「赤ちゃんについて学ぶことで、自他を大切にできるようになると思います。今後もこの事業が続きますように!」



清明小の児童

・お母さんは大変な思いをして、ここまで育ててくれたんだと分かって『恩返しをしてあげたい』と思いました。・命の大切さが分かりました。今日学んだことを将来生かしたいと思います! ・早くおとなになって子どもを産みたいと思いました。抱っこしてみたい、手や足が小さくて、とてもやわらかかった。見た目によらず、重かったです。ずっと抱っこしていたいくらいかわいかったです!」

中学校

中学生には、今まで感じたことのない感情が育まれたと思います。赤ちゃんの小さな指で手を握られた時、大切に扱われないという感じが伝わりました。慈しむ気持ちが自然に生まれて、自分たちも慈しまれていたことに気が付いたのではないのでしょうか。赤ちゃんの力の素晴らしさを感じました。

子どもにも伝わり、離乳食を食べさせてもらうなど本人も大満足でした。皆さんにも良い経験になれば幸いです。 ・「子育てを始めて、夜泣きや兄弟げんかでは大変ですが、中学生の皆さんを見て、こまめに育てた母親はすごいなと元気づけられました!」



ピッコロのスタッフの皆さん(約90人が在籍)

ご協力いただいた保護者の方の感想(一部)

・「どこかで会ったら声をかけてほしいですし、いつでも自分の子と遊んでほしいです!」 ・「今日は泣きっぱなしでしたが、電車やバスで泣いている子どもがいても、自分もそうだったんだ、と優しい気持ちで見守ってくれようと思います!」 ・「こやかで優しい雰囲気

こねて言うことを聞かない第1次反抗期)の話を聞き、自分の弟も2歳の時が一番かんしゃく持ちで扱いにくかったことを思い出して、それを受け入れて育ててくれた母親に感謝するとともに、いろいろな意味で母親はすごいなと感動しました。 またぜひ参加したいです! 赤ちゃんや小さい子と触れ合う機会がもっとたくさんあれば、うれしいです。



本日の体験事業に参加して、小さい赤ちゃんを守ってあげることができれば、自分自身も思いました。また、「魔の2歳児」(何でも「イヤイヤ」と駄々を

事業を体験した二中の高辻律平さんに、感想を伺いました